

科目名	向精神薬論			ナンバリング	CL1173	授業形態	講義
対象学年	4 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	梅津由紀子	担当教員					

授業の概要	新コアカリキュラムの項目に、実務実習内で精神神経疾患・脳血管障害を含む代表的な8疾患を学ばせることが提示された。さらに薬剤師国家試験では精神科関連の出題も散見され、薬学部における精神科教育が高まっている。抗精神病薬や抗うつ薬は副作用が多く、抗不安薬や睡眠薬は麻薬および向精神薬取締法により、その使用と管理が厳しく規制されている薬剤である。本講義では、患者に安心して向精神薬を服用してもらうために、薬剤師に必要な精神神経疾患の治療に関する専門的知識を存分に身につけることを目標とする。						
到達目標	1. 精神科領域で扱う疾患の分類と薬物（向精神薬）の基本的な作用機序を説明できる。 2. 臨床で遭遇する8つの精神疾患に加え、一部の神経疾患の病態、成因、治療方法や治療薬の作用点を理解し、患者に対する薬物療法を説明できる。 3. 薬物（向精神薬）による錐体外路症状、過鎮静などの副作用で患者のQOLが損なわれること、また抗精神病薬や抗うつ薬に難治性の患者がいるなどの問題を理解し、安全で適切な薬物療法を提供するために薬剤師の寄与が欠かせないことを理解する。						
学習のアドバイス （勉強方法、履修に必要な 予備知識など）	本科目は、精神神経疾患に特化した病態と治療方法を統合させたいわば「精神科治療学」の授業である。講義で示されるスライドや、参考書の図を自分の言葉で説明できるようになることを目指し学習に取り組むこと。生理学1、臨床薬物動態学、薬理学1および薬理学2を履修していることが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
	○	3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①睡眠障害について、病態および治療薬の薬理作用、主な副作用を説明できる。 ②うつ病、双極性障害について、病態および治療薬の薬理を説明できる。 ③統合失調症について、病態および治療薬の薬理、副作用を説明できる。 ④自閉スペクトラム症(ASD)・注意欠如性多動症(ADHD)の病態および治療薬の薬理を説明できる。 ⑤パーキンソン病について、病態および治療薬の薬理、副作用を説明できる。 ⑥認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症等)について、病態および治療薬の薬理、副作用を説明できる。	①睡眠薬の作用機序、主な副作用および臨床適用を説明できる。 ②不安障害について、症状および治療薬の薬理・薬物の選択等薬物治療を説明できる。 ③うつ病、双極性障害について、病態および薬物治療を説明できる。 ④統合失調症について、病態および治療薬の薬理・薬物治療を説明できる。 ⑤ASD、ADHDについて、中枢興奮薬の薬理および臨床適用を説明できる。 ⑥薬物使用障害(依存症)、アルコール使用障害(依存症)について説明できる。 ⑦パーキンソン病について、病態および薬物治療を説明できる。 ⑧認知症について、病態および治療薬の薬理・薬物治療を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						期末試験の成績 (60%)
小テスト・授業内レポート	○						小テストの成績(30%)
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			授業への参加と授業 態度(10%)

課題、評価のフィードバック	1. 2回の小テストを課すが、その解答提出時に、manaba@IMUを利用して解答例を配布する。 2. 毎回の授業内容に対して質問があれば、manaba@上でもコメントを返す。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	睡眠薬①	睡眠障害の疫学および病態を理解する。睡眠薬の分類が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-2
	第2回	睡眠薬②	ベンゾジアゼピン系睡眠薬・その他の睡眠薬(メラトニン受容体作動薬・オレキシン受容体拮抗薬)の薬理作用と選択基準が説明できる。副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-2
	第3回	抗精神病薬	統合失調症の病態ならびに治療方法を理解し、抗精神病薬の分類ならびに薬理作用が説明できる。特に薬原性錐体外路症状が出現するメカニズムが説明できる。抗精神病薬の副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-2,3
	第4回	抗不安薬	不安障害の疫学および病態を理解する。SSRI・SNRI・ベンゾジアゼピン系抗不安薬の分類が説明できる。治療薬の薬理作用と選択基準が説明できる。副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-2
	第5回	まとめ①	1回から4回まで学習した治療薬の薬理作用と副作用を列挙できるようにする。禁忌・相互作用を説明できるようにする。さらに精神科薬物療法のエビデンスが説明できるようにする。	
	第6回	抗うつ薬と気分安定薬①	気分障害(大うつ病性障害)の病態ならびに治療方法を理解し、抗うつ薬の薬理作用と副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-3
	第7回	抗うつ薬と気分安定薬②	気分障害(双極性障害)の病態ならびに治療方法を理解し、気分安定薬の薬理作用と選択基準が説明できる。副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-3
	第8回	抗認知症薬	認知症の病態と治療方法を理解し、抗認知症薬の治療目標が説明できる。抗認知症薬(中核症状)の薬理作用と副作用が説明できる。また、抗認知症薬(周辺症状)の薬理作用と副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-2,3
	第9回	抗パーキンソン病薬	パーキンソン病の病態ならびに治療方法を理解し、抗パーキンソン病薬の治療目標が説明できる。抗パーキンソン病薬の分類が説明できる。	SBO:C14-(3)-6-4
	第10回	飲酒欲求抑制薬と抗酒薬	アルコール使用障害(依存症)の疫学、病態および治療方法が説明できる。飲酒欲求抑制薬・抗酒薬の治療目標を説明し、薬理作用と副作用が説明できる。	SBO: C14-(4)-1-4
	第11回	精神刺激薬	自閉スペクトラム症・注意欠如性多動症の病態ならびに治療方法を理解し、薬物治療の目的が説明できる。精神刺激薬の副作用と対処方法が説明できる。	SBO:C14-(4)-1-1
	第12回	まとめ②	6回から11回まで学習した治療薬の薬理作用と副作用を列挙できるようにする。禁忌・相互作用を説明できるようにする。さらに精神科薬物療法のエビデンスが説明できるようにする。	
	第13回	向精神薬の分類とその管理について	向精神薬の分類および向精神薬の使用目的が説明できるようにする。向精神薬の発注から納品・保管までの流れ、保管場所の区分、在庫管理の方法について説明できるようにする。	SBO: C14-(4)-1-1～4
	第14回			
	第15回			
	試験	期末試験を実施する。結果が60点未満の者は再度復習して再試験に備える。		
授業の進め方		1. 基本的に講義と質疑応答とする。 2. また、2回の確認小テストを実施する。		
授業外学習の指示		資料「授業予習のためのポイント」をmanaba@IMUで毎回配信するので、それに従って参考書「臨床精神薬学」の該当箇所を読むなど予習を行い、概要を理解しておく。配布資料を中心に講義の内容を復習する。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	毎回配布する授業用プリントに従って、授業を進めていく。
参考書	薬剤師レジデントライブラリー「臨床精神薬学」[編者]野田幸裕 吉尾 隆 南山堂 定価:3,456円(本体3,200円＋税8%) 978-4-525-70701-9
参考URLなど	
その他	1. 資料の配布にはmanaba@IMUを利用する。 2. また、期末試験の前には、本科目における修得すべきポイントをまとめ、プリントとしてmanaba@で配信する。